



Japan Display Inc.

2024年度 第2四半期（中間期）
決算説明資料

2024年11月13日

株式会社 ジャパンディスプレイ



PersonalTech For A Better World



Japan Display Inc.

FY24 1H 総括

- 「世界初、世界一」独自技術である次世代OLED「eLEAP」の量産体制を確立し、本年12月に量産開始
- eLEAPに対する顧客の旺盛なニーズに対応すべく、eLEAPのグローバルエコシステム構築に向けた取組みを継続。中国安徽省蕪湖市とのMOUの非延長を10月に決定するも、eLEAPの生産能力拡大に向けて拠点候補先として、中国、インドに加え、北米、欧州、中東が加わる

- 主に液晶スマートフォン及びVRの販売減により1H（上期）売上高は前年同期比減収
- 製品ミックス改善、固定費削減、在庫効率化により、1HはEBITDA+26%、営業利益+28%、当期純利益+41%改善
- 豊富な知的財産の積極的活用を継続し、台湾ディスプレイ大手であるAUOと特許クロスライセンス契約を更改、ライセンス料を受領

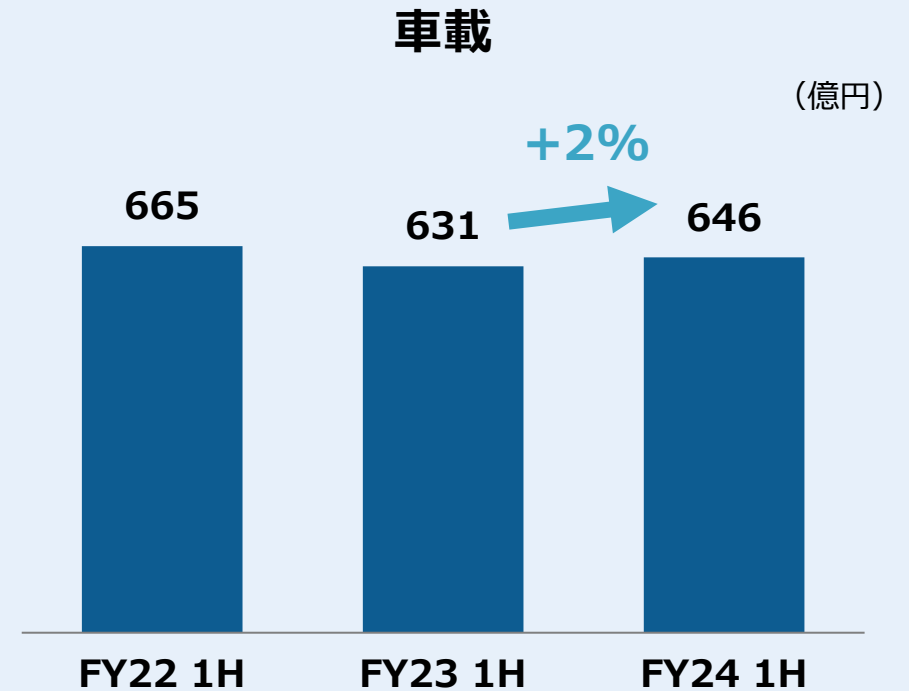
- **1Hの結果は概ね予想通りも、売上高・利益の下期予想を大幅下方修正し、必達目標であったEBITDAの黒字転換は未達の見込み**
- **過当競争で病んでいる構造的低収益ディスプレイ産業において、ディスプレイ「一本足打法」による慢性的赤字体質からの脱却は今までにない大きな舵切りが必要**
- **さらなる改革により「ディスプレイ」事業を早急に黒字転換させるとともに、ディスプレイ専業メーカーから「BEYOND DISPLAY」への変革を遂げ、社会が必要とする高成長分野に参入**

- **長年蓄積してきたコア・ケイパビリティを活かし、以下の新領域に経営資源を投入、均衡のとれた事業ポートフォリオを構築**
 1. センサー
 2. AIデータセンター
 3. 先端半導体パッケージング
- **「新生JDI」として継続的な黒字化と持続的成長を実現**

長期供給契約に基づいた 安定性の高い成長ドライバー

「世界初、世界一」独自技術である
次世代OLED eLEAP及び2VD等
斬新な新規技術にもとづく製品の商談も活発

低採算品の販売終了や最終顧客の需要減を
新製品販売と円安でカバーし増収

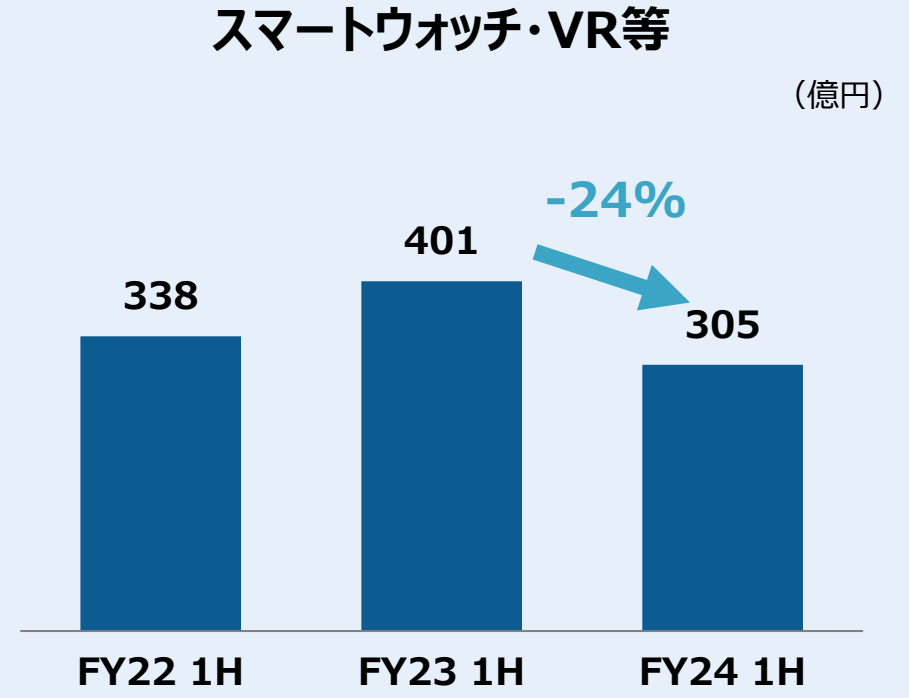


※ 事業の実態を分かり易く反映するため、2023年度第2四半期決算より、売上分野の名称を次の通り変更いたしました。：「モバイル」→「液晶スマートフォン」、「ノンモバイル」→「スマートウォッチ・VR等」
なお、当該変更は名称のみの変更であり、売上区分の変更はございません。

商品ポートフォリオの分散化により
車載同様、安定性の
高い成長ドライバーにすべく育成中

OLED売上は前年同期比フラットも
VRは大幅減

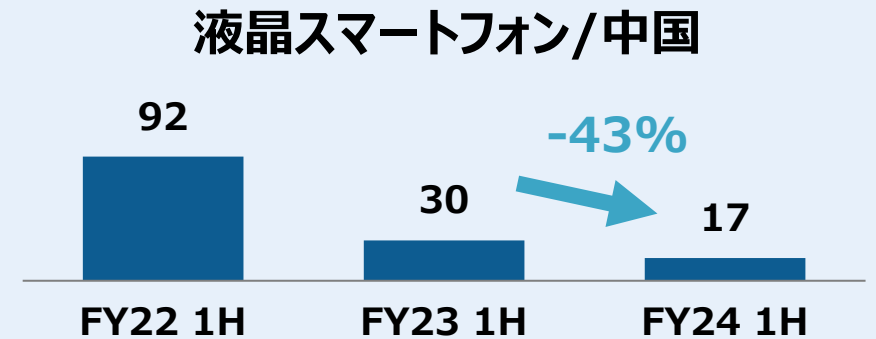
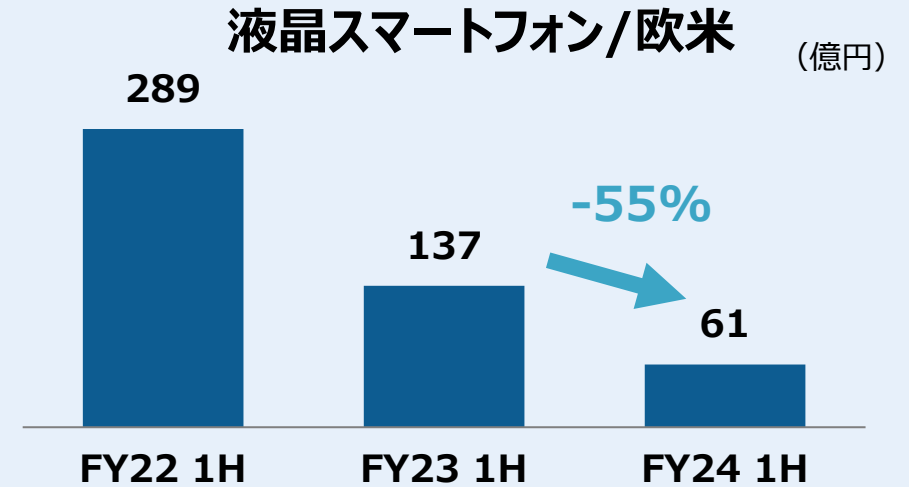
eLEAP量産立ち上げが着実に進捗



エンジニアリングリソース等、経営資源を次世代製品に集中すべく、コモディティ化されて収益性の低い液晶スマホ事業を戦略的に縮小

上記施策により53%減収

eLEAPを通じて競争優位性をもって、より収益性の高い形でスマートフォン事業に再参入





Japan Display Inc.

FY24 1H 業績報告

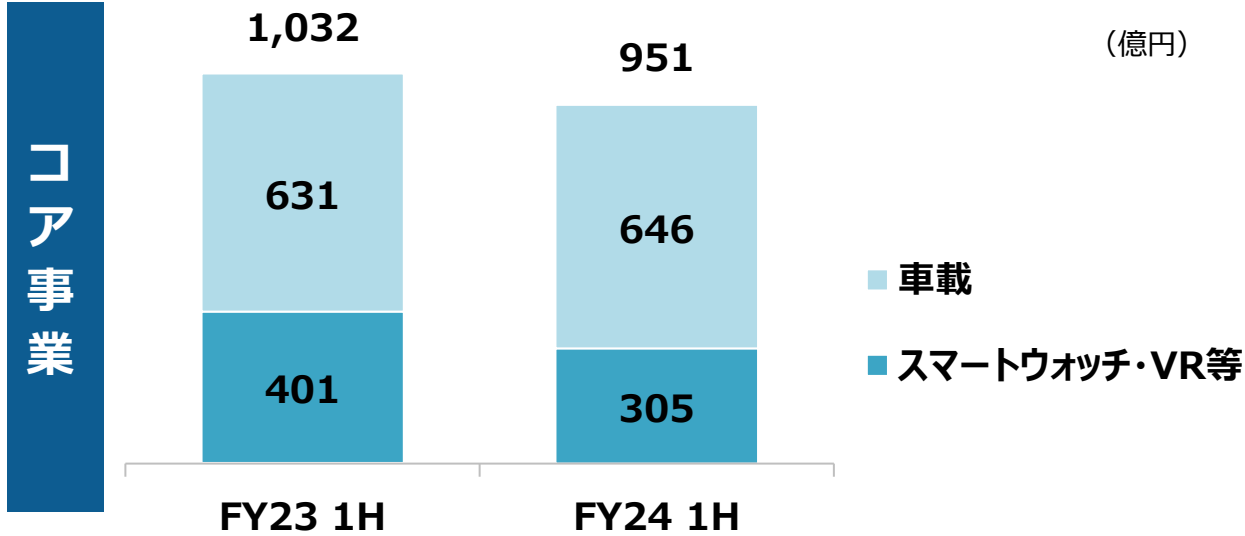
売上高は減少も、製品ミックス改善、固定費削減、在庫効率化により利益は改善 EBITDA +26%、営業利益 +28%、当期純利益 +41%改善

(億円)	FY23 1H	FY24 1H	前年 同期比	
売上高	1,199	1,029	-14%	主にVR用製品の減少によりコア事業（車載、スマートウォッチ・VR等）が減収、ノンコア事業（液晶スマートフォン）は経営資源の成長事業への集中による戦略的縮小から減収
コア事業	1,032	951	-8%	
ノンコア事業	167	78	-53%	
EBITDA	△181	△134	+47	売上減も、製品ミックス改善、固定費削減、在庫効率化により損失を縮小
営業利益	△214	△155	+60	
当期純利益	△287	△168	+119	減損損失 92億円→5億円に減少 固定資産(主に旧東浦工場)売却益18億円計上

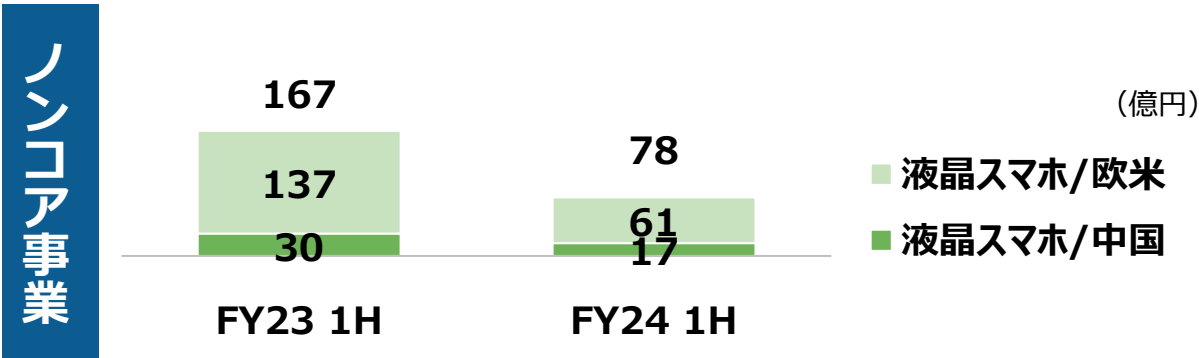
売上減の影響大きく、EBITDA-25%、営業利益-12% 当期純利益は減損損失の大幅縮小により+37%改善

(億円)	FY23 2Q	FY24 2Q	前年 同期比	
売上高	669	470	-30%	
コア事業	582	450	-23%	需要の軟化により、コア事業（車載、スマートウォッチ・VR等）が減収。ノンコア事業（液晶スマートフォン）は戦略的に縮小
ノンコア事業	86	19	-78%	
EBITDA	△59	△74	-15	製品ミックス改善及び固定費削減効果があったものの、売上減の影響が大きく減益
営業利益	△76	△84	-9	
当期純利益	△165	△103	+61	減損損失 92億円→5億円に減少

主にVRの需要減によりコア事業（車載、スマートウォッチ・VR等）減収 戦略的縮小によりノンコア事業（液晶スマートフォン）減収

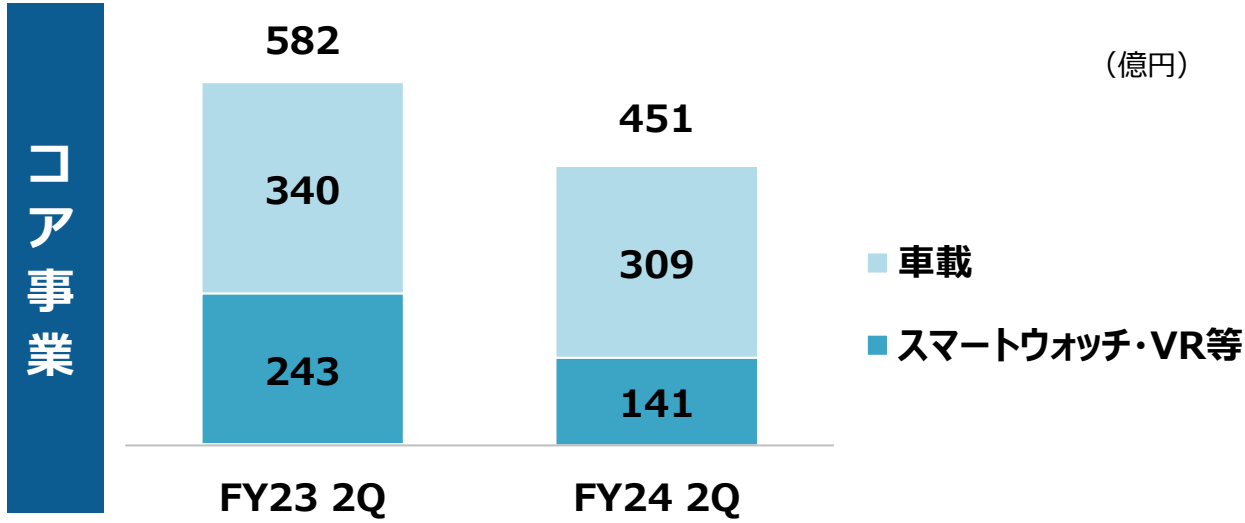


- **車載 (YoY +2.4%)**
新製品販売及び円安効果により増収
- **スマートウォッチ・VR等 (YoY -23.9%)**
VRの大幅減により減収
OLEDスマートウォッチはフラット

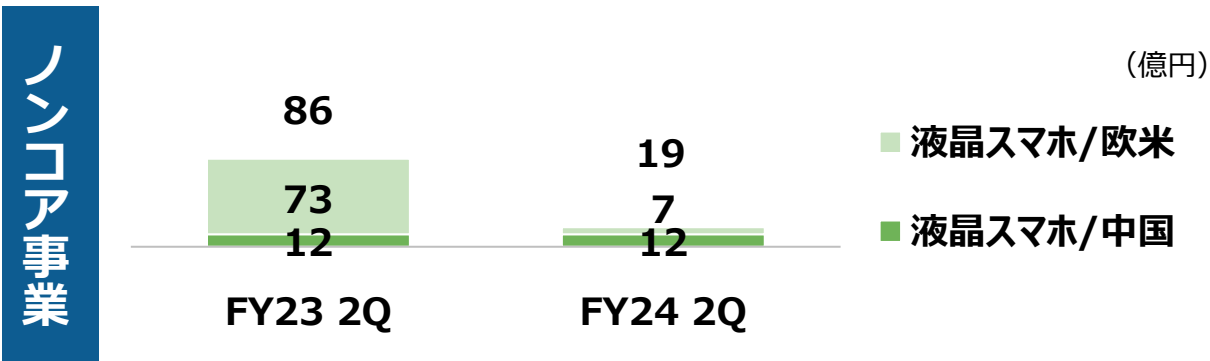


- **液晶スマートフォン (YoY -53.3%)**
エンジニアリングリソース等の経営資源を次世代製品に集中するための戦略的縮小により減収

コア事業（車載、スマートウォッチ・VR等）は最終顧客の需要減により減収 ノンコア事業（液晶スマートフォン）は戦略的縮小により減収



- **車載 (YoY -8.9%)**
 新製品の販売増の一方、低採算品の販売終了及び需要減により減収
- **スマートウォッチ・VR等 (YoY -41.8%)**
 VR、スマートウォッチともに顧客需要が減少

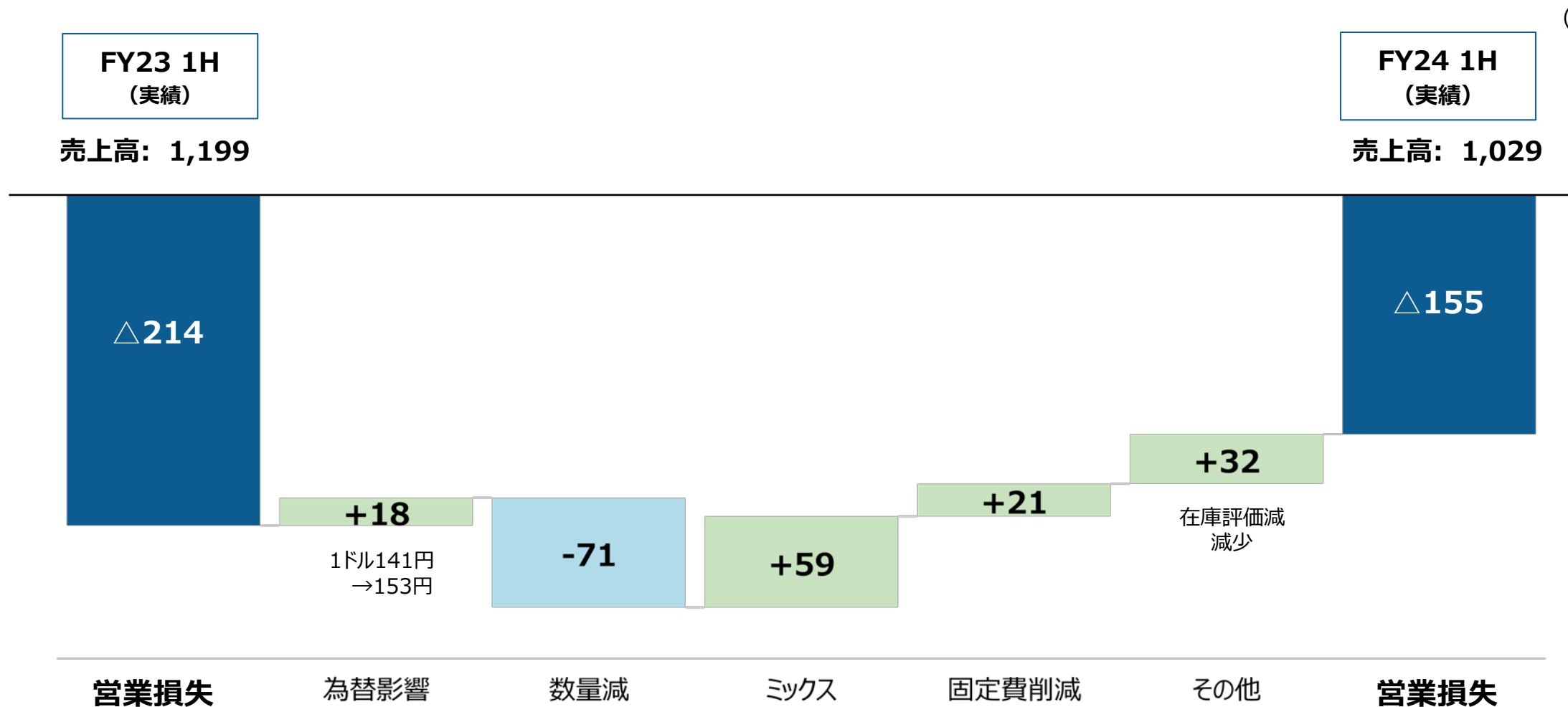


- **液晶スマートフォン (YoY -77.9%)**
 エンジニアリングリソース等の経営資源を次世代製品に集中するための戦略的縮小により減収

FY24 1H 営業利益 増減要因 (前年同期比)

前年同期比

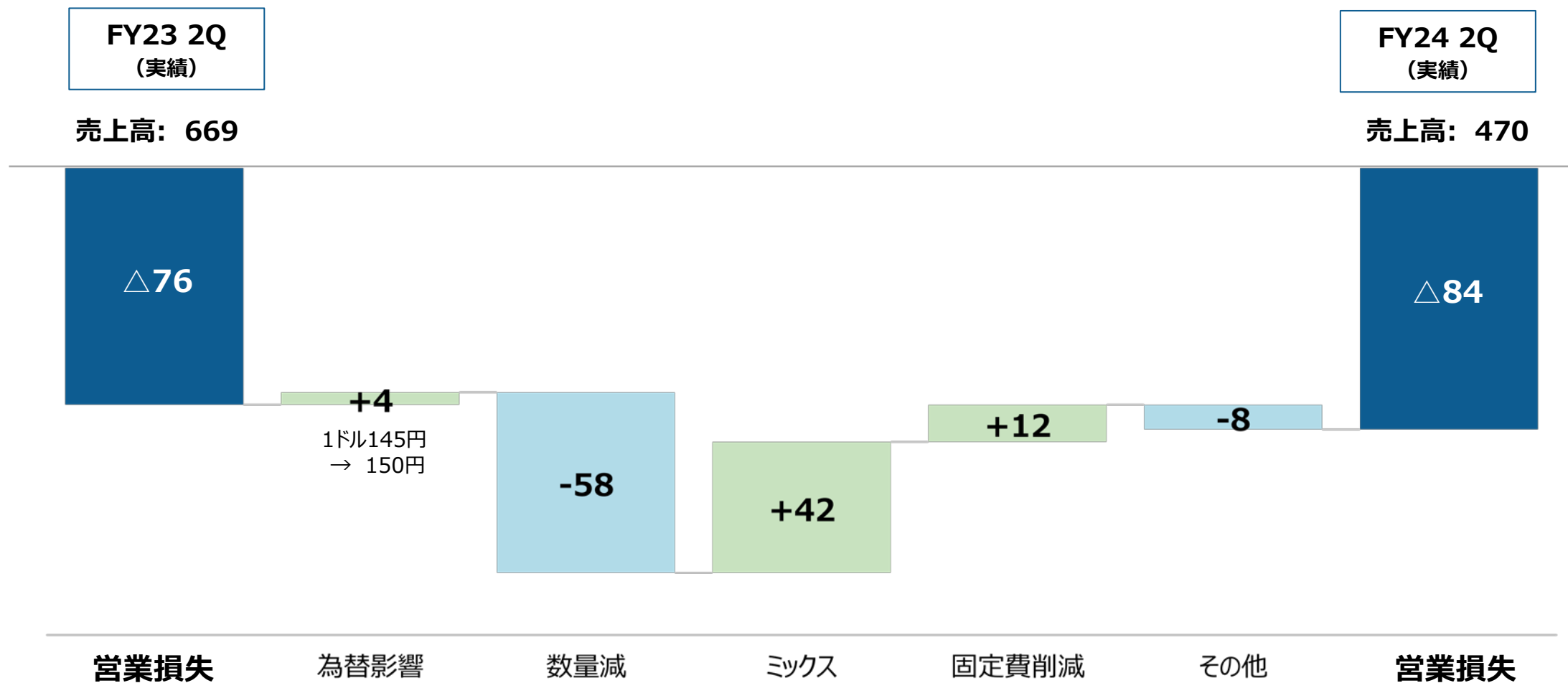
(億円)



FY24 2Q 営業利益 増減要因 (前年同期比)

前年同期比

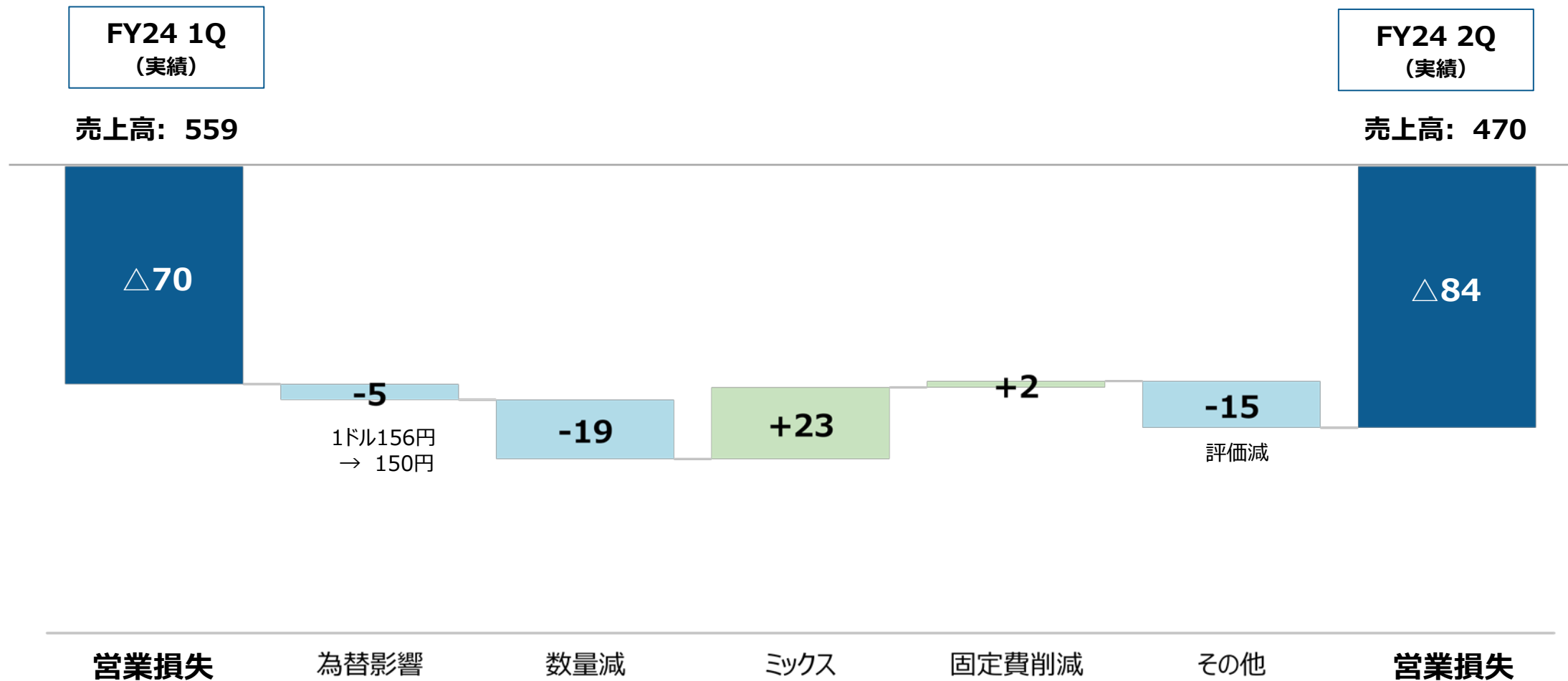
(億円)



FY24 2Q 営業利益 増減要因 (前四半期比)

前四半期比

(億円)





Japan Display Inc.

2024年度 業績予想

スマートウォッチ及び車載のエンドユーザー需要減、及びeLEAP/HMO技術収入見込減額により業績予想を下方修正

(億円)	FY24			FY24	FY24
	1H	2H	2H	通期	通期
	実績	前回予想	今回予想	前回予想	今回予想
売上高	1,029	1,173	771	2,218	1,800
車載（コア事業）	646	656	528	1,318	1,197
スマートウォッチ・VR等（コア事業）	305	495	235	808	517
液晶スマートフォン/欧米（ノンコア事業）	61	0	2	59	62
液晶スマートフォン/中国（ノンコア事業）	19	16	6	33	24
EBITDA	△ 134	13	△ 129	△ 117	△ 264
営業利益	△ 155	△ 29	△ 162	△ 182	△ 317
経常利益	△ 173	△ 64	△ 195	△ 243	△ 368
当期純利益	△ 168	△ 96	△ 225	△ 266	△ 393

※FY24 2H想定為替レート：1ドル=150円

FY24 営業利益予想 増減要因 (前回予想比)



1H 前回予想比

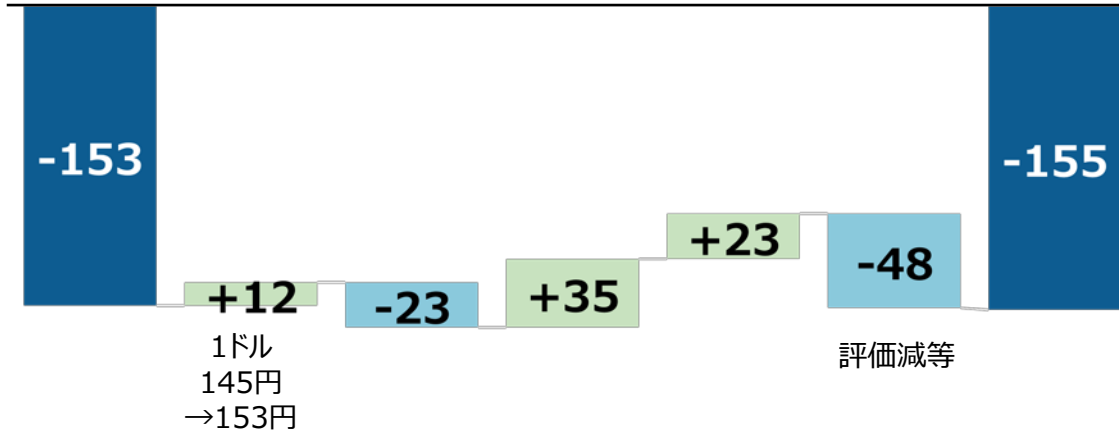
(億円)

FY24 1H
(前回予想)

FY24 1H
(実績)

売上高: 1,045

売上高: 1,029



営業損失

為替影響

数量減

ミックス

固定費削減

その他

営業損失

2H 前回予想比

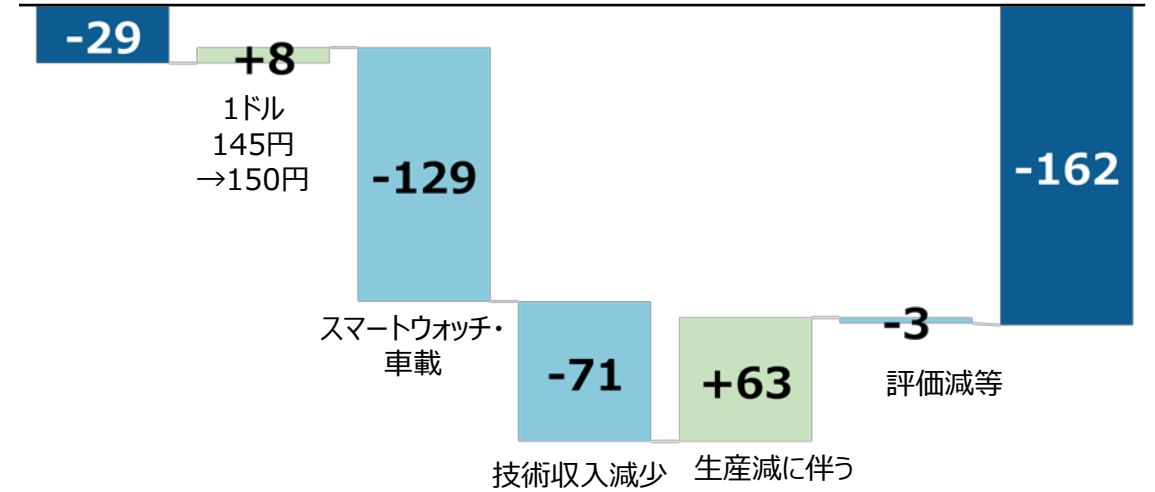
(億円)

FY24 2H
(前回予想)

FY24 2H
(今回予想)

売上高: 1,173

売上高: 771



営業損失

為替影響

数量減

ミックス

固定費削減

その他

営業損失



Japan Display Inc.

「BEYOND DISPLAY」 新生JDIの事業戦略

JDI

BEYOND DISPLAY

JDI コア・ケイパビリティ

世界屈指の
技術力

長年に渡り蓄積された
日立、ソニー、東芝の
ディスプレイ技術及び
エンジニアリングリソースが
集結され、
「世界初、世界一」の
独自技術を創出し続ける
世界の
ディスプレイトップメーカー

豊富な
知的財産

16,000件以上の保有・
出願特許権等からなる
強固な知的財産権
ポートフォリオを強みに、
クロスライセンス契約で
ライセンス料受領の
立ち位置を誇る

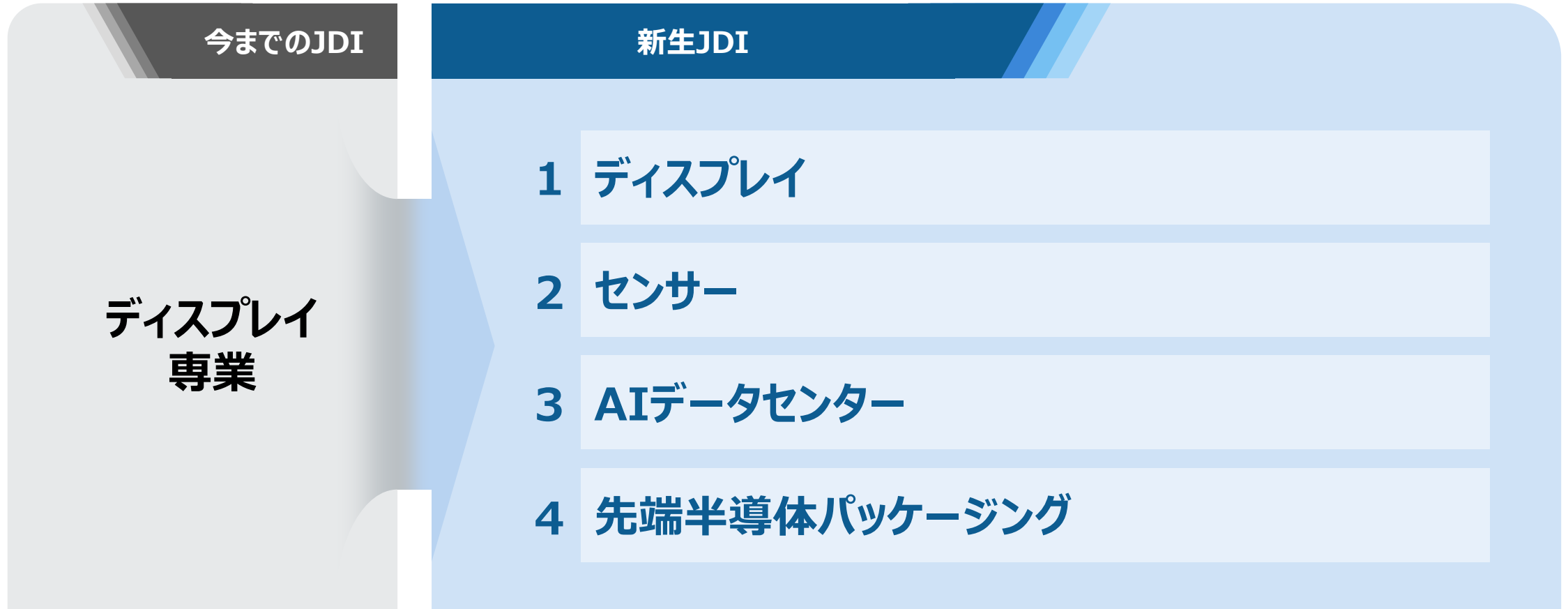
盤石な
顧客基盤

業界トップクラスの品質と
長年に渡る丁寧な顧客
対応が礎となっている
圧倒的な顧客からの信頼
と強固なJDIブランド
ロイヤリティ

地政学的
優位性

地政学的緊張感が
高まるなか、
「MADE IN JAPAN」が
提供するグローバル・
ディスプレイ・
サプライチェーンにおける
多様化とリスク低減効果
は顧客ニーズと合致

新領域に経営資源を投入、均衡のとれた事業ポートフォリオを構築



今までのJDI

ディスプレイ
専業

新生JDI

- 1 **ディスプレイ**
- 2 センサー
- 3 AIデータセンター
- 4 先端半導体パッケージング

ディスプレイは現代社会の基盤技術であり、年間18兆円の巨額なグローバル市場
JDIは他の追随を許さない技術・競争優位性を通じて
社会の発展にとって不可欠な企業として顧客価値・社会価値を創造

ディスプレイ事業の高収益化に向けた施策

- 収益性向上：「世界初、世界一」独自技術に基づく価値提供（eLEAP, 2VD, 等）
- 売上規模拡大：eLEAPの生産能力拡大とグローバルエコシステム構築に向けたアライアンスを実現
- 資本生産性向上：アセットライト事業モデルの更なる深化
- 収益性向上と損益分岐点改善：聖域ないコスト削減の継続

※グローバルディスプレイ市場規模の出所は、OMDIAによる「Worldwide Flat Panel Display Market (Active Matrix) Size」（2023年10月）（1ドル = 150円にて換算）

eLEAPがOLED市場を先導

優れた性能の一方、
OLEDには固有の課題も

これらの課題が、従来型OLEDのディスプレイ分野
における広範囲な採用を阻害している



短寿命



高コスト

eLEAPがOLEDの成長を加速

eLEAPは従来型OLEDの利点を維持したうえで、課題を解決



eLEAP



長寿命

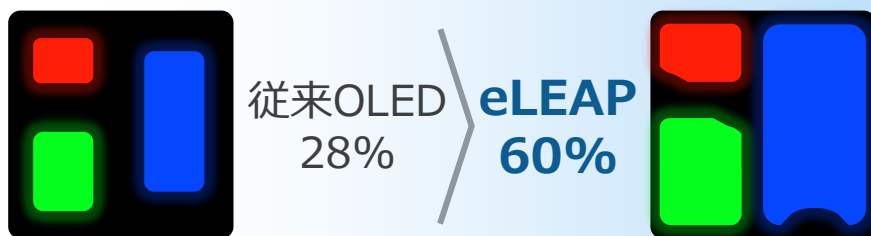


低コスト



eLEAPが提供する比類なき顧客価値

高輝度（2倍）



既存技術では想像できない明るさ、鮮やかさ、フリーシェイプ



長寿命（3倍）

寿命比較

	新品 0h	1年後 1000h	3年後 3000h	5年後 5000h
従来OLED				
eLEAP				

※600nit相当輝度で3h/day点灯による輝度劣化を想定したイメージ

eLEAPが提供する今までにない環境価値 OLED蒸着用マスクを使用せず、洗浄不要で環境にやさしいプロセス 最大で年間15万tのCO2排出量が削減可能



年間15万tのCO2排出量 =

CO2吸収量
杉成木
約1700万本



杉林面積
東京ドーム
3,700個



CO2排出量は第6世代基板30ksheet/月における当社試算

サプライチェーンの多様化とリスク軽減を推進しつつ eLEAPの生産能力拡大とグローバルエコシステム構築に向けて 世界の強力なパートナー候補と協議中



Dual Touch機能を搭載した高画質 2 Vision Display 運転席と助手席それぞれに高画質映像を表示すると同時に、左右からのタッチ操作を識別



見る方向により異なる2つの映像を表示する2VDの画質を大幅に向上させ、車載用途で求められる画質に対応する2VD製品を世界で初めて開発



さらに、運転席／助手席からのタッチ操作を識別できる機能（Dual Touch）も世界で初めて搭載。1枚のディスプレイをあたかも別々の2枚のタッチ機能付きディスプレイのように利用することが可能に

今までのJDI

ディスプレイ
専業

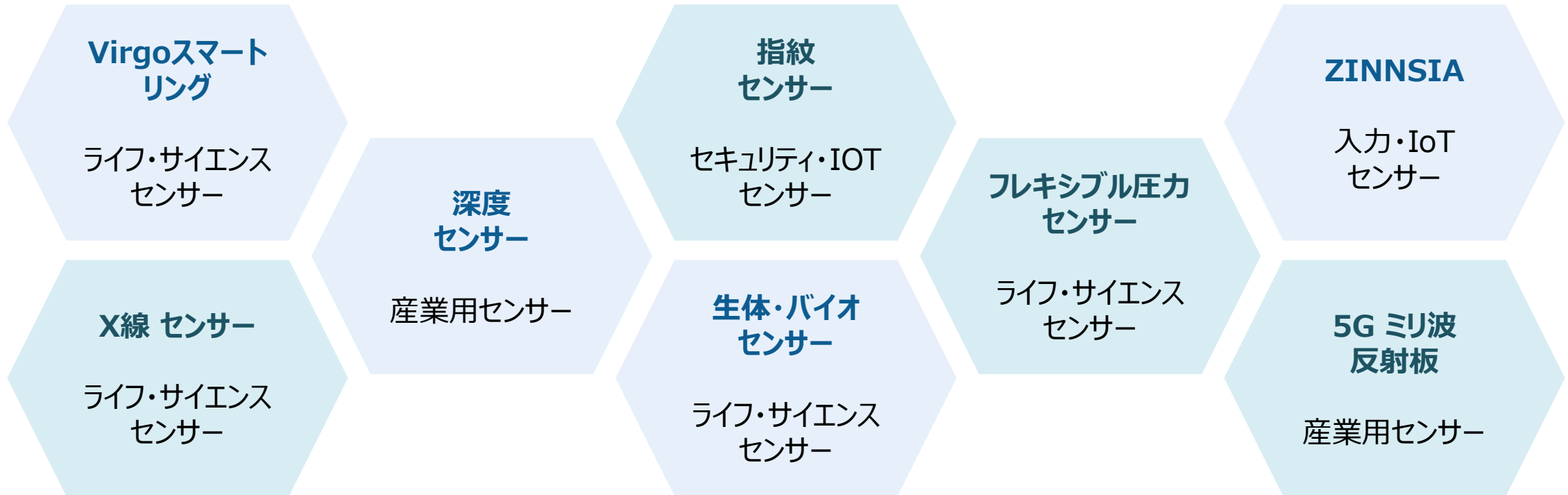
新生JDI

- 1 ディスプレイ
- 2 **センサー**
- 3 AIデータセンター
- 4 先端半導体パッケージング

- **グローバルセンサー市場は2024年においては年間44兆円を超える巨大な市場であり、2030年には年間64兆円ほどの市場まで成長することが見込まれている**
- **センサーとディスプレイには共通する基盤技術が多くあり、JDIの世界トップクラスのディスプレイ技術をセンサーに応用することでJDIはセンサーにおいても競争優位性を確立**
- **センサーは構造的に高収益：大型化により基板ガラスあたりの収益性が減少傾向にあるディスプレイと違い、センサーは面積が小さく、基板ガラスあたりの収益性が非常に高い**
- **面積が小さいセンサーは、巨額の追加設備投資なしに、JDIが現在有する既存の第4.5世代及び第6世代の工場において効率よく生産が可能**

グローバルセンサー市場の出所は、Statista.com「Size of the global sensor market in 2019 and 2020, with a forecast for 2021 through 2030」（1ドル=150円にて換算）

JDIは先端かつ多様なセンサー群を通じて巨大なグローバルセンサー市場への参入が可能



ZINNSIA（ジンシア）様々な素材表面をタッチパネルに変える 革新的インターフェイス



ZINNSIA は、これまでセンサーとして使用することが難しかった素材でも、指の動きを検知することを可能にする、革新的なインターフェイス

木材



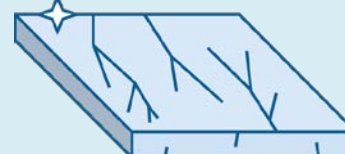
布



皮革



大理石



石膏



多くの素材に対応することができるため、幅広い市場、製品への展開が可能に

ZINNSIAなら、全てがスイッチになる



ZINNSIAが素材越しでもサクサク動く理由:

センサー設計

専用カスタムIC

システム駆動法

ファームウェア
(アルゴリズム)

JDIの先進的なプロセス知識と製造技術を活用したZINNSIAは、以下の特徴も有する:

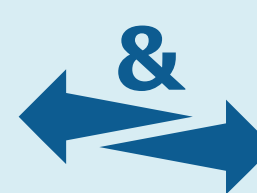
- 高い耐ノイズ特性
- センサー基材の自由度（曲げ可能）
- 製品サイズのバリエーション
- 製品に応じたファームウェア調整

先進的なTFTバックプレーン技術を用いたX線検査装置用センサーパネル



先進的な半導体技術とTFT技術を応用し、医療及び産業用X線検査装置のセンサーを設計。顧客ニーズに応じた様々な特性を持つセンサーパネルを提供

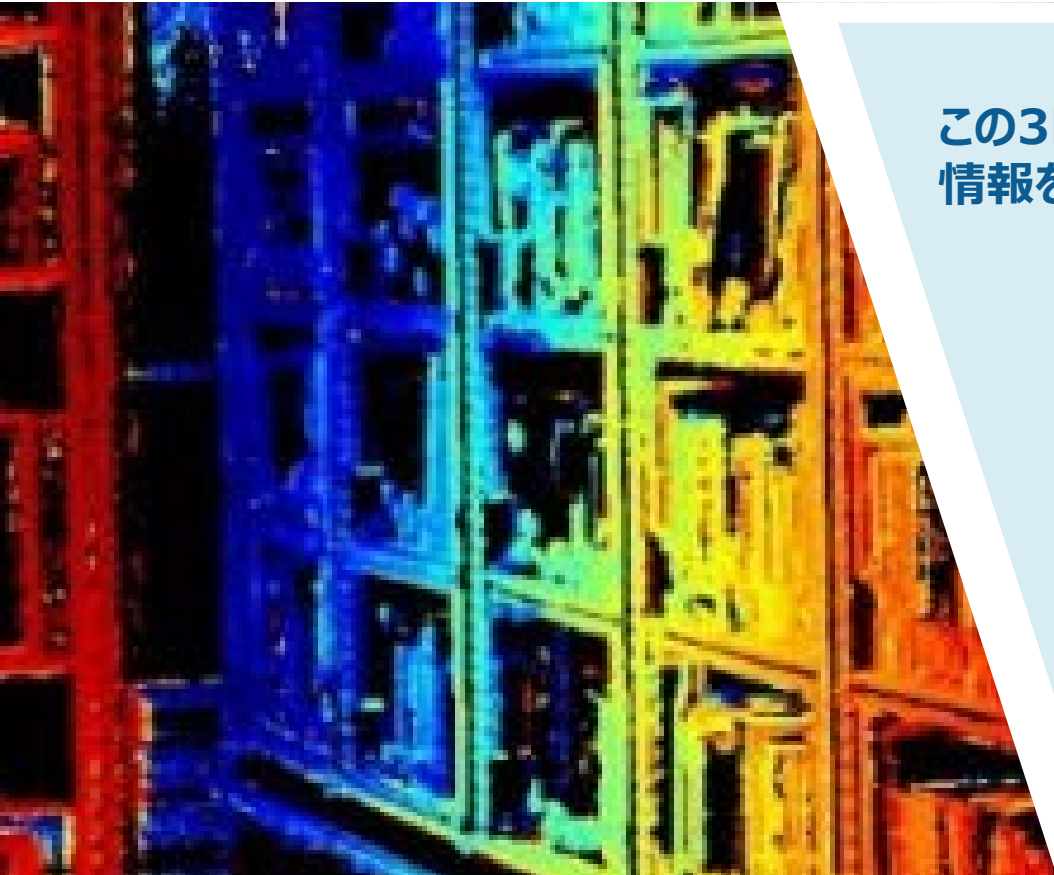
ヘルスケア分野



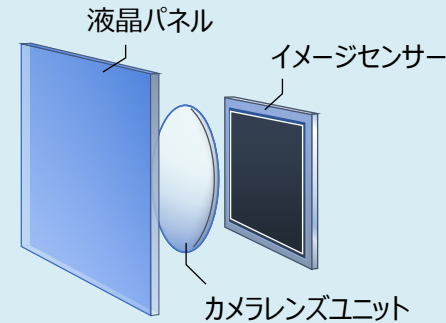
産業分野

高解像度のX線画像を捉え、医療現場での正確な診断と産業環境での精密な検査を可能に

通常の映像とデプス(深度)マップの両方を同時にキャプチャする世界初の3D撮影技術を開発



この3D撮影技術により、単一のカメラで、色情報を含む映像データと距離や位置情報を含むデプスマップのキャプチャが可能に



新3D撮影技術
によるデプスマップ
キャプチャ

撮影対象



取得したデプスマップ



自動運転などの分野において求められる、人、建物、パターンの形状や位置を正確に測定し、データとして取り込む技術に対応可能

TFTの技術を応用し、薄い、軽い、曲がる、大型のマトリクスセンサーを実現 身に付けていただける（＝ウェアラブル）生体・バイオセンサーに応用



TFT等のカスタム薄膜基板の一形態として、先進的な半導体技術とTFT技術を応用し、様々なバイオセンサーデバイスにセンサー基板を実装

指紋撮像



ウェアラブル
デバイス

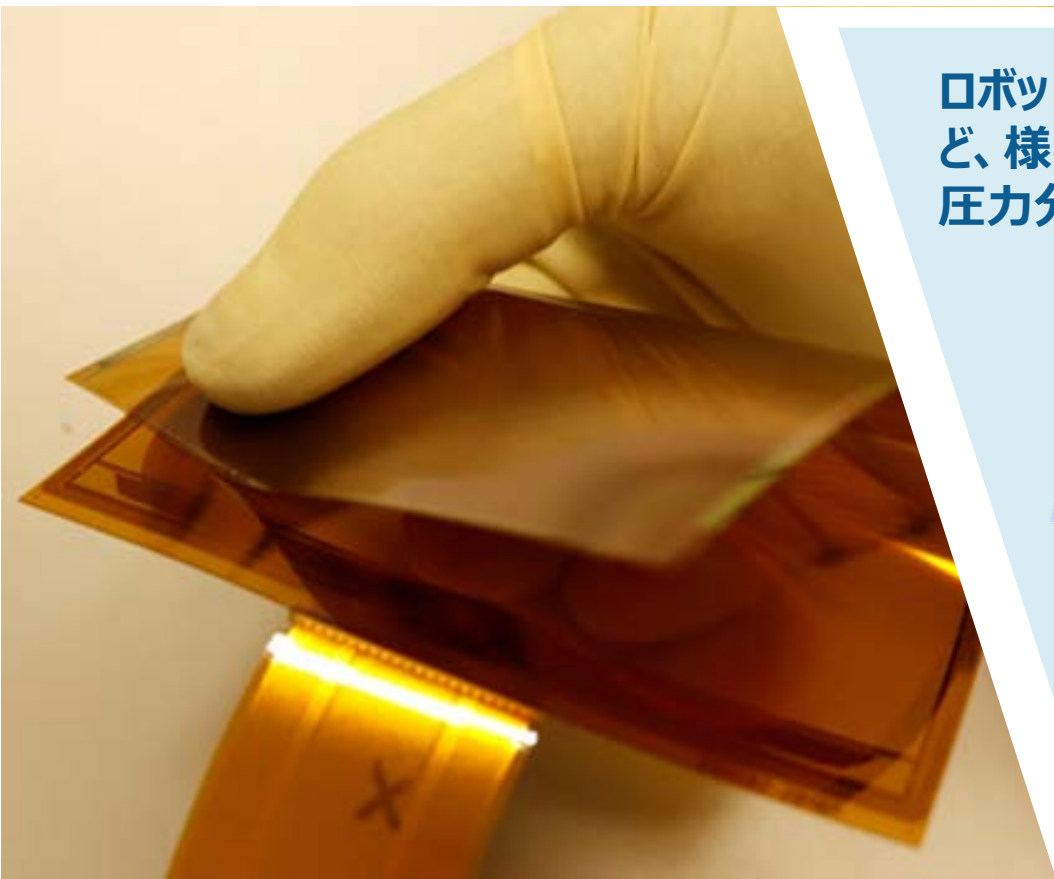


静脈撮像

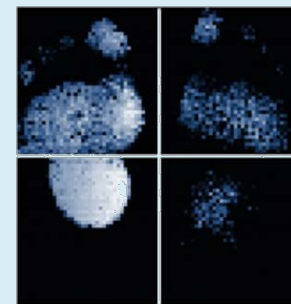
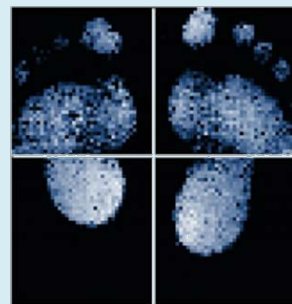
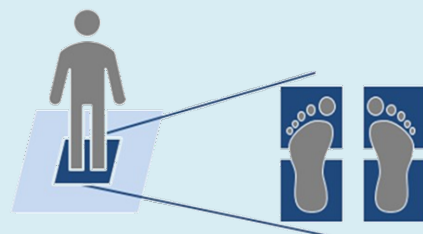


米国連邦捜査局（FBI）によるPIV(Personal Identity Verification、個人識別確認) 認定された高いセキュリティ性能

アクティブマトリクス技術を用いたJDIの世界初 フレキシブルLTPS TFT圧力分布センサーにより 広領域を高精細度で測定することを実現



ロボットが物品を把持する時の力加減や、歩行時の足裏接地部の圧力分布など、様々な新技術、新商品の開発あるいはスポーツ、医療の研究場面において、圧力分布を精度高く測定することが求められる



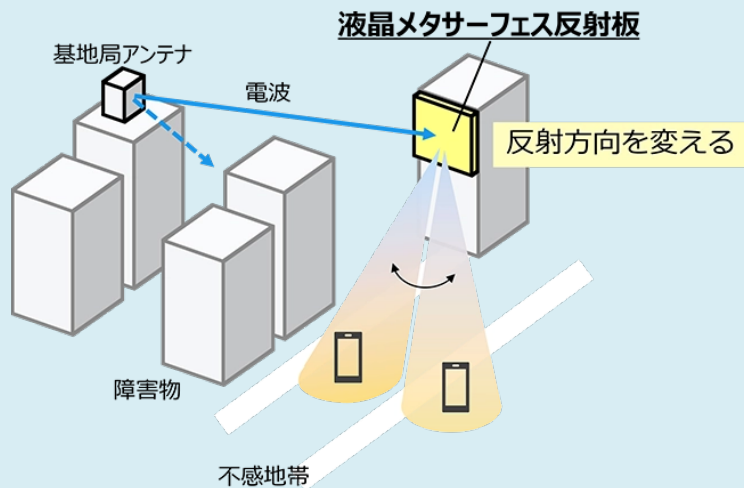
高精細で
圧力分布を
計測

ディスプレイに使われるアクティブマトリクス技術と導電性感圧層2を組み合わせ、各画素に流れる電流をモニタリングすることで、高精細かつクロストークの無い圧力分布センサーを実現

世界をリードするJDIの5G液晶メタサーフェス反射板は、5G通信インフラの更なる発展と効率化を支え得る重要通信デバイス



液晶メタサーフェス反射板は、当社が培ってきた液晶技術を電波の世界に応用した5G向け通信デバイス



- ▶ エリアの修正
設置後の電波環境の変化に対応
- ▶ 動的なエリア構築
昼夜の人流の変化などに対応

大容量通信が可能なミリ波を任意の方向に反射させることでビル陰など電波の届きにくいエリアでの通信環境を改善

世界で初めてフレキシブル基板上に形成した有機光検出器（OPD センサー）を搭載したスマートリングにより、薄く装着性の高い形状と幅広い生体計測を実現



JDIのOPDセンサーは心拍数、血中酸素ウェルネス、睡眠時間、歩数、消費カロリーなどの日常生活における健康管理に必要なライフログを自動的に取得可能



スマートリング、スマートフォンアプリ、クラウドの連携によって日々の健康状態を把握できるだけでなく、保健師等の有資格者によるアドバイスや健康に関する情報を提供することにより、利用者の健康意識の向上や行動変容をサポート

今までのJDI

ディスプレイ
専業

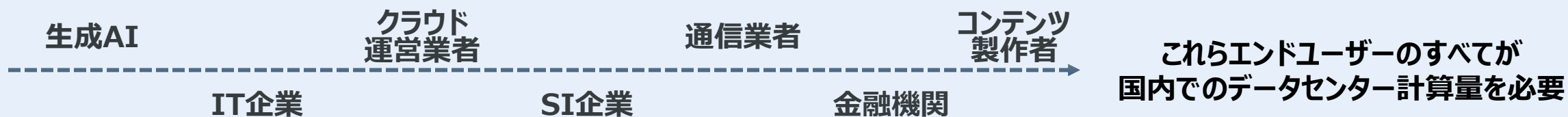
新生JDI

- 1 ディスプレイ
- 2 センサー
- 3 **AIデータセンター**
- 4 先端半導体パッケージング

- 日本におけるAIデータセンターでの計算量は、2020年から2040年までの間に10万倍と爆発的に成長することが見込まれている
- 一方で国内におけるAIデータセンターの増設を阻害する要因が多数存在
- JDIは、AIデータセンター設立に適した複数の施設・用地、及びエンジニアリング技術を豊富に有しており、当該施設等のデータセンター転用に関して複数の潜在的パートナーと協議中

出所：三菱総合研究所による研究・提言レポート「生成 AI の普及が与える日本の電力需要への影響」（2024年8月）

- 生成AIをはじめとした計算処理の爆発的成長に伴い、AIデータセンターにおける莫大な計算量が必要
- 必要計算量の爆発的成長と連動して国内におけるAIデータセンター需要が増大中



国内計算量需要
2020年~2040年
10万倍

国内データセンター
需要が爆発的に拡大

VS

データセンター拡張における
3大阻害要因

適地不足:国土の73%
ほどが山岳地帯、
津波リスク、
良地は活用済み

データセンターに
必要不可欠な
高圧電力への
接続が困難

建設市場の
需給逼迫による
5年超の長い
リードタイム

阻害要因 ①
適地

阻害要因 ②
電力

阻害要因 ③
建設

生産を停止した茂原V3工場は東京近郊で短期間に優れたデータセンターになりうる



適地

土地面積:

236,302 m²

東京まで **68 km**

沿岸から **8 km**



電力

電力供給能力:

44 MWh



建設

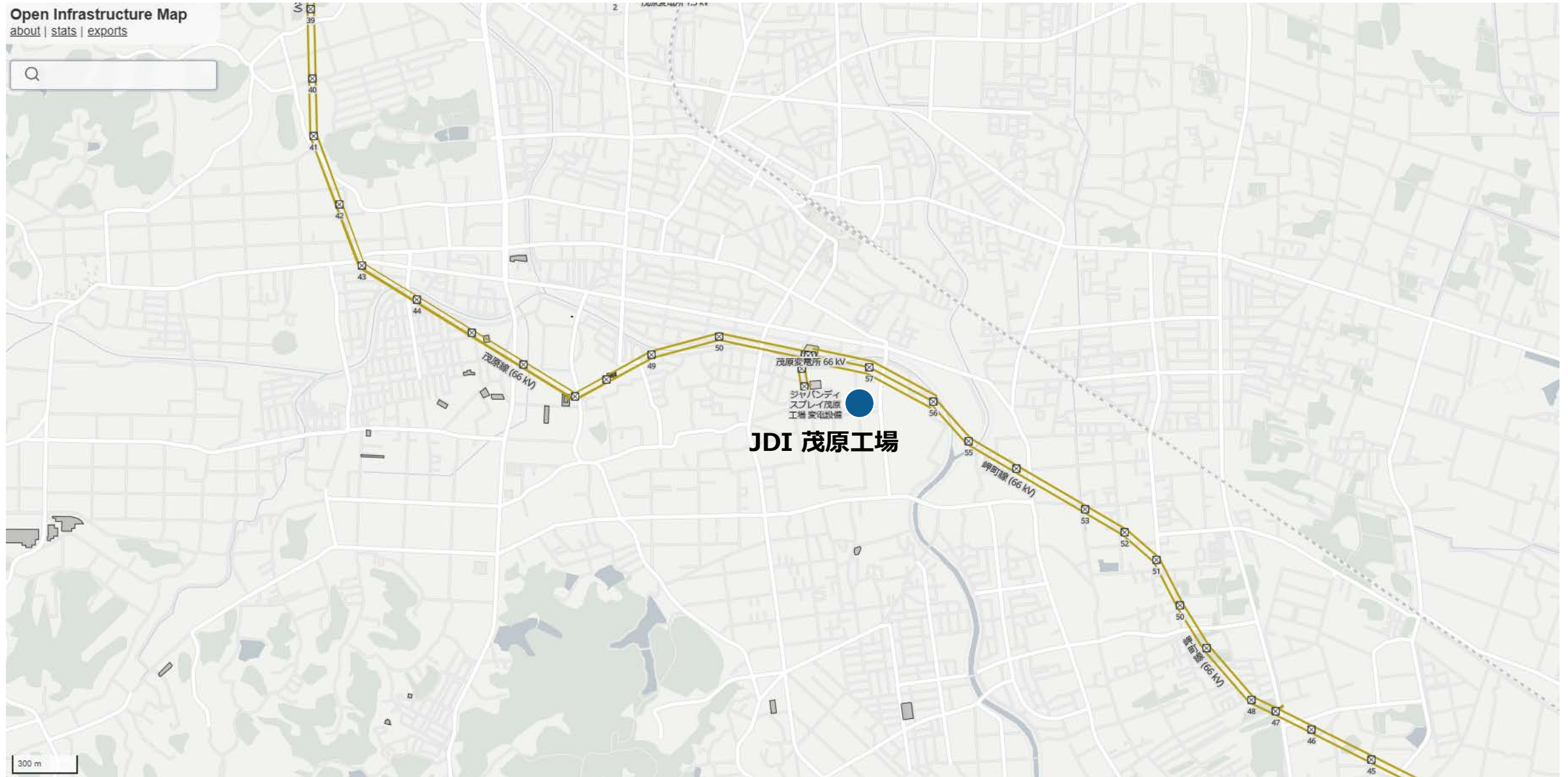
延べ床面積:

166,843 m²

クリーンルーム面積:

54,250 m²

JDI 茂原V3工場 – 幹線送電線への直接アクセス



鳥取工場（2025年3月に生産終了予定）は近畿地方、大阪に近く
短期間に優れたデータセンターになりうる



適地

土地面積:

113,000 m²

大阪まで **146 km**

沿岸から **7 km**



電力

電力供給能力:

41 MWh



建設

延べ床面積:

120,000 m²

クリーンルーム面積:

29,500 m²

JDIが保有する千葉県佐倉市の工場跡地は、開発に時間を要するが、東京近郊で大規模幹線網に隣接し、優れたデータセンターになりうる



適地

土地面積:

68,657 m²

東京まで **59 km**

沿岸まで **15 km**



電力

電力供給能力:

**未接続だが、
大規模な275kVの
幹線送電線に隣接**



建設

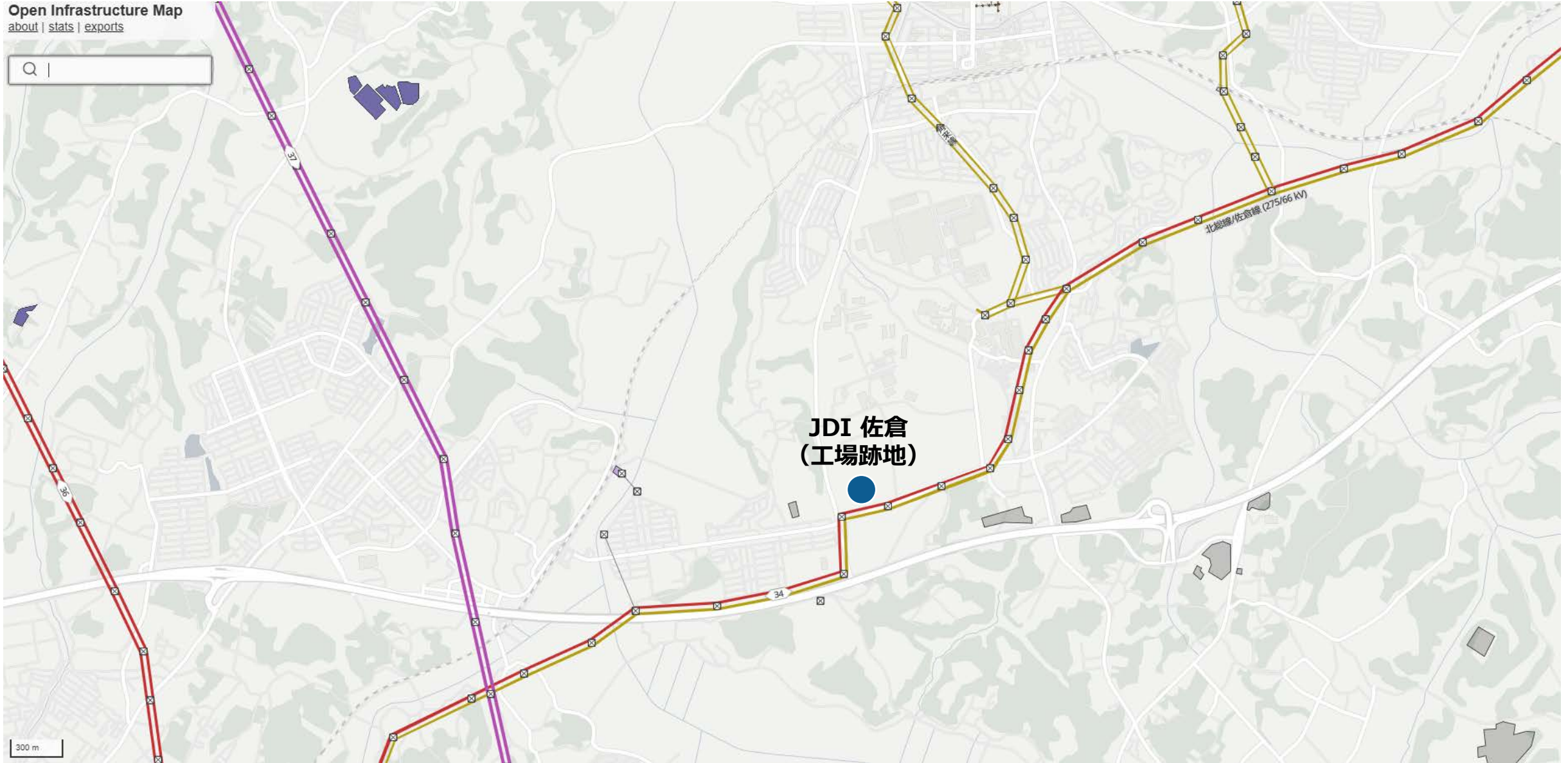
延べ床面積:

更地（未開発）

クリーンルーム面積:

更地（未開発）

JDI 佐倉市工場跡地 – 幹線送電線への直接アクセス



今までのJDI

ディスプレイ
専業

新生JDI

- 1 ディスプレイ
- 2 センサー
- 3 AIデータセンター
- 4 **先端半導体パッケージング**

- 先端半導体パッケージングは、2024年においては7.5兆円の巨大グローバル市場であり、2034年までに年間20兆円ほどの市場へと飛躍的な成長が予想される
- AI半導体の放熱量の増加が既存の有機基板の熱耐性を超過しつつあることと、チップレット形態の半導体の増加による基板サイズの拡大により、これらの特性により適したガラス基板への技術シフトが急速に進行
- ガラス基板への技術シフトをうけ、大手半導体メーカーが、ガラス基板における高精度処理技術に長けたディスプレイ工場を買収中：TSMCによるInnolux工場の買収（2024年8月～）、マイクロンによるAUO工場の買収（2024年8月～）

出所：Precedence Researchによる「Semiconductor Packaging Market Size, Share, and Trends 2024 to 2034」（2024年10月）

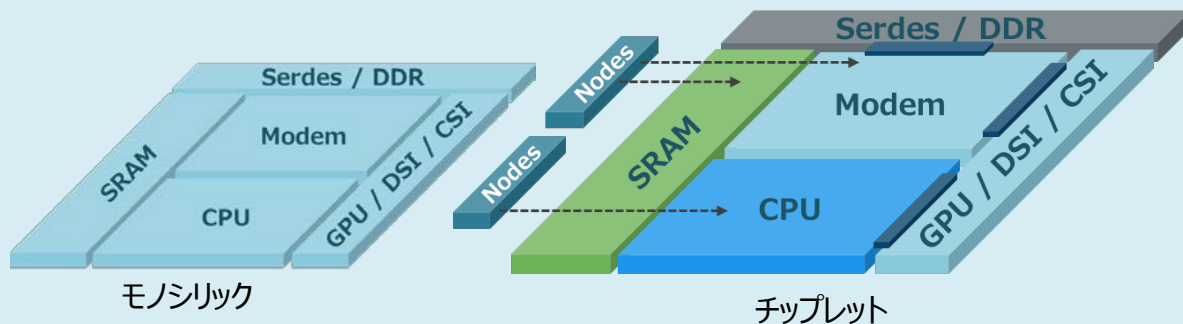
- **ガラス基板ベースでは世界最高の精細度となる2500ppi超のVR/MR用ディスプレイの開発など、JDIはガラス基板の超高精細処理技術において世界トップクラスの技術を有しており、先端半導体パッケージングの事業展開を可能としている**
- **JDIは、先端半導体パッケージング事業の展開に関して複数の潜在的パートナーと協議中**

ムーアの法則による半導体の進化は、前工程だけでなく後工程でも進展

現在のトレンドには、チップレット化、インターポーターの採用、高密度配線、低誘電率の進展があり、これは、より大きな基板サイズと、基板及びインターポーターにガラスを使用する必要性を示唆

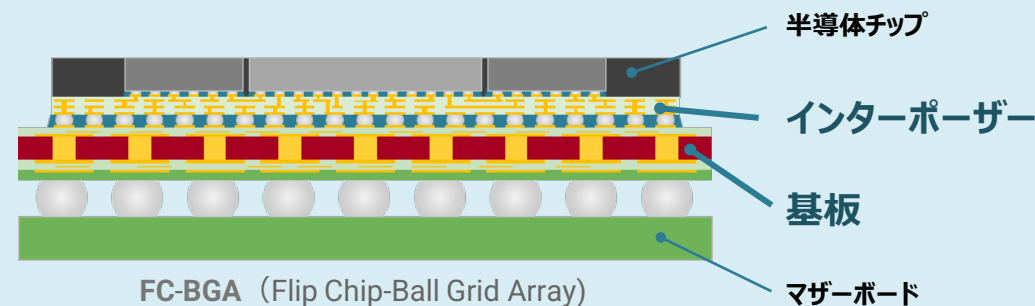
チップレット化

- 主要な半導体メーカーやファブレス企業を含むコンソーシアムによる標準化により、モノリシックな構成の代わりにチップレットが登場
- ウェハサイズの制約により、大型モノリシックICの製造は困難
- **その結果、チップレットアプローチにはより大きな基板が必要**



高密度配線、低誘電率、及び大型化

- AIプロセッサメーカーは、基板のベース材料としてガラスコアを検討しており、最大240平方mmまでの**サイズ拡大**を検討
- 大型サイズは有機基板を使用すると反りやすく、より剛性の高い**ガラス基板**は有用
- また、高速転送には低誘電率が必要。**ガラス基板**はその点でもより優れた性能を有する
- **ガラス**はインターポーターの材料としても非常に有望



より大型な基板への移行、ガラスの採用、高密度配線の要求は JDIの技術活用機会を拡大

先端半導体パッケージングにおいて、適切な基板素材の選択は 必要な性能基準を充たすために重要

ガラスは有機基板に比べて表面が滑らかであるため、高周波数での伝送損失が少ない
高周波数では、スキム効果により信号は表面のみを伝わるため、ガラス基板の滑らかな表面は信号損失を減少させる



有機基板
表面の粗さは約 $2\mu\text{m}$
(スキム深さは28GHzで約 $0.4\mu\text{m}$)



ガラス基板
表面の粗さ $< 0.01\mu\text{m}$



ガラス基板は非常に剛性が高く、歪みが少なく、優れた熱安定性を持つため、高密度信号配線に適した数 μm のライン/スペースの微細配線パターンの形成が可能



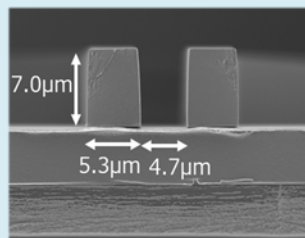
ガラス基板 = 電氣的・機械的特性の両方において改善をもたらす

主要半導体メーカーは、次世代の半導体パッケージ基板（インターポーザ）としてガラス基板の開発を加速しており、ガラス基板の加工技術とサプライチェーンの拡大が期待されている

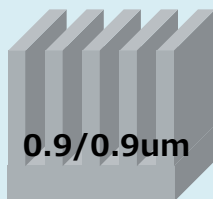
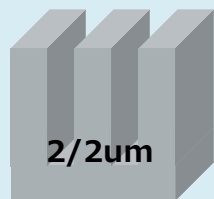
JDIはTFTバックプレーンプロセスを使用したガラス基板の加工技術により、 大型かつ低コストなパッケージングを実現可能

高密度配線技術

L/S=5/5 μ m

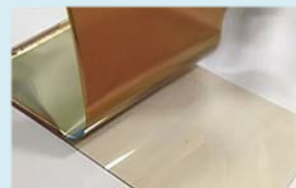


さらなる細線加工

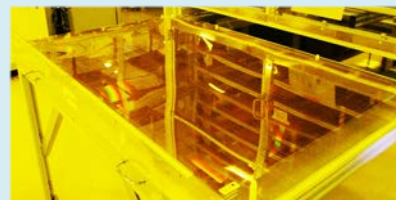


薄膜、ガラス加工技術

フィルム基板技術を
応用



大板一括
ガラス剥離

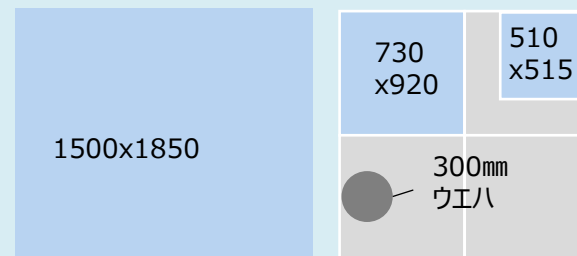


ガラスエッチン
グ、穴あけ

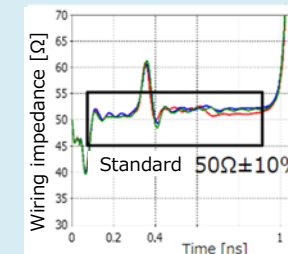
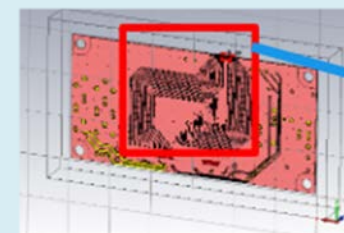


高品質・低コスト

大型基板加工



配線設計や伝送特性シミュレーション



転用可能なクリーンルーム



- **本決算資料でご説明いたしましたBEYOND DISPLAYに向けた新生JDIへの変革の取り組みは進行中であり、関連事項の開示を近い将来に予定しております**
- **今後開示する事項とBEYOND DISPLAY事業戦略の関連性を含め、新生JDIとしての長期戦略と数値目標のご説明は来年2月の3Q決算において発表する予定です**



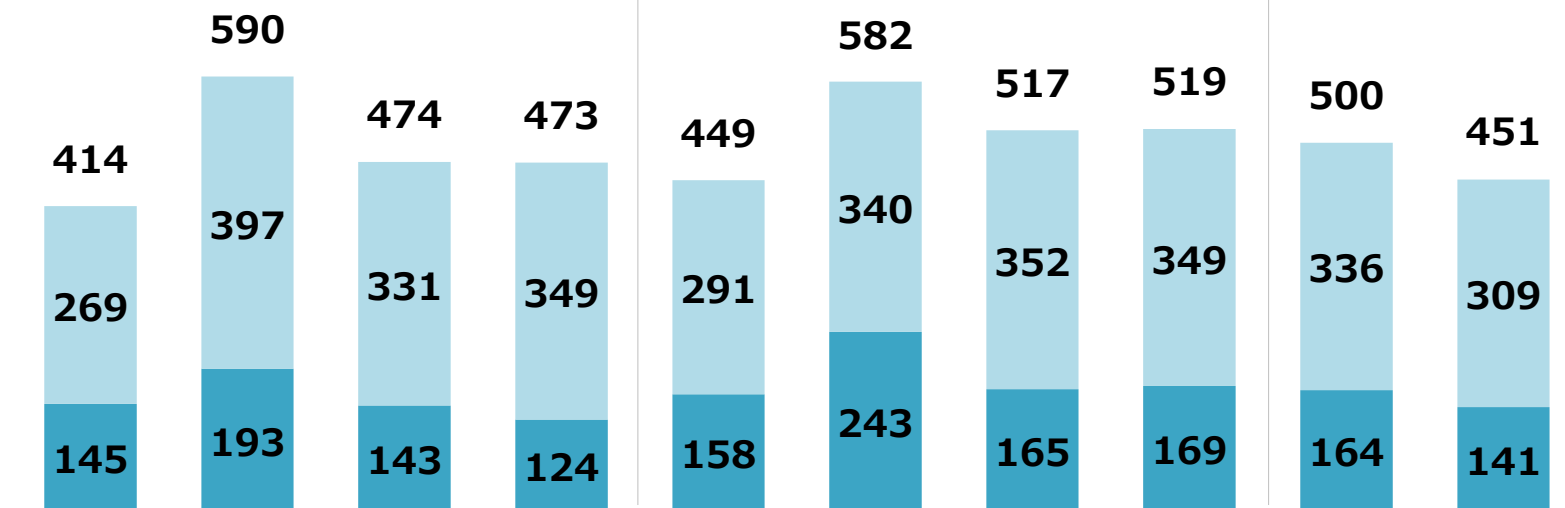
Japan Display Inc.

Appendix

分野別四半期売上高推移

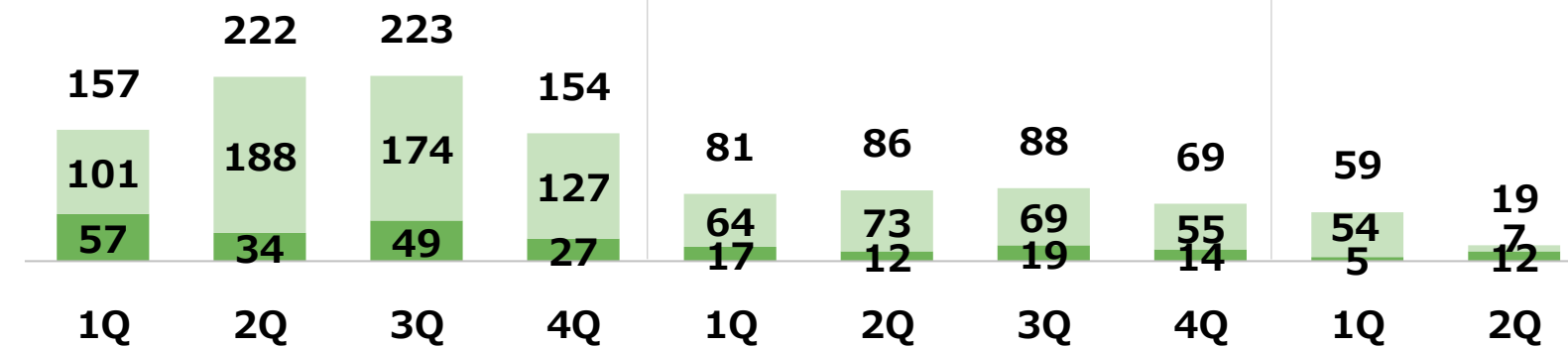
(億円)

コア事業



- 車載
- スマートウォッチ・VR等

ノンコア事業



- 液晶スマートフォン/欧米
- 液晶スマートフォン/中国

FY22

FY23

FY24

(億円)	FY23 期末	FY24 1H末	前年度末比
現金及び預金	293	243	-51
売掛金	293	234	-59
未収入金	179	121	-59
在庫	640	611	-28
その他流動資産	115	90	-25
流動資産合計	1,520	1,298	-221
固定資産合計	720	673	-47
資産合計	2,240	1,972	-268
買掛金	463	351	-112
有利子負債	348	456	+108
未払金	181	146	-35
その他負債	392	345	-46
負債合計	1,383	1,298	-85
純資産合計	857	673	-184
自己資本比率	38.1%	34.0%	-4.1ポイント

(注) 貸借対照表の「現金及び預金」の額と、キャッシュフロー計算書「期末現預金残高」の額との差異は、「預け金」です。

(億円)	FY23 2Q (3か月)	FY24 2Q (3か月)	YoY	FY23 1H (6か月)	FY24 1H (6か月)	YoY
売上高	669	470	-199	1,199	1,029	-170
EBITDA	△ 59	△ 74	-15	△ 181	△ 134	+47
営業利益	△ 76	△ 84	-9	△ 214	△ 155	+60
営業外収益	17	6	-10	44	11	-33
営業外費用	△ 12	△ 17	-5	△ 21	△ 29	-8
経常利益	△ 70	△ 95	-24	△ 191	△ 173	+18
特別利益	1	1	+0	1	18	+17
特別損失	△ 92	△ 7	+85	△ 92	△ 8	+84
税引前四半期純利益	△ 161	△ 101	+61	△ 282	△ 163	+119
中間(四半期)純利益	△ 165	△ 103	+61	△ 287	△ 168	+119
平均為替レート(円/米ドル)	144.6	149.7		141.1	152.8	
期末為替レート(円/米ドル)	149.6	142.7		149.6	142.7	

(億円)	FY23 1H (6か月)	FY24 1H (6か月)	YoY
税引前四半期純利益	△ 282	△ 163	+119
減価償却費	34	21	-13
運転資金の増減額	95	28	-67
その他	71	△ 51	-122
営業キャッシュ・フロー	△ 83	△ 165	-82
固定資産の取得による支出	△ 86	△ 32	+54
固定資産の売却による収入	2	59	+57
その他	△ 13	△ 6	+7
投資キャッシュ・フロー	△ 97	22	+118
短期借入金の純増減額	200	105	-95
その他	△ 4	△ 2	+2
財務キャッシュ・フロー	196	103	-93
期末現預金残高	291	237	-54
フリー・キャッシュ・フロー	△ 169	△ 198	-29

(注) 「フリー・キャッシュ・フロー」は、「営業キャッシュ・フロー」と「固定資産の取得による支出」の合計額です。



THANK YOU

将来予測及び見通しに関して

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。

また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、ディスプレイを搭載するの電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。